Miyazaki International College

Course Syllabus

|  |  |
| --- | --- |
| Course Title ( Credits ) | EDU316：教育原理 Principles or Education (2 credits) |
| Course Designation for TC | 教員の免許状取得のための必修科目【科目】教育の基礎的理解に関する科目【施行規則に定める科目区分又は事項等】教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 |
| Content Teacher |
| Instructor | 堀　和郎（単独） |
| E-mail address | khori@sky.miyazaki-mic.ac.jp |
| Office/Ext | 1-203 |
| Office hours | オフィスのドアに記載されています。 |
| Language Teacher |
| Instructor |  |
| E-mail address |  |
| Office/Ext |  |
| Office hours |  |

|  |
| --- |
| Course Description: |
| 【全体目標】教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。この授業では、まず、教育という基本概念を複数の視点から分析して、教育という営みの持つ、その多様な意味合いを明らかにする。つぎに、家庭教育、社会教育、学校教育の順で、教育という営みがどのように行われ、どのような問題が生じているかをその歴史やそれを巡る思想に注目しつつ概観する。家庭教育に関しては、家庭教育の基本的な機能とその変容を明らかにしたうえで、現代の家庭と教育をめぐる諸問題を検討する。社会教育については、その理念の変遷を見た後に、社会教育の持つ様々な側面を、その対象、形態、施設、活動形式、内容という観点から整理する。そして、社会教育の世界的動向として、生涯教育論を取り上げて、社会教育に新たな局面が生まれていることを明らかにする。最後の学校教育に関するパートでは、まず、現代教育の支配的形態である公教育制度の下では学校教育が中核的地位を占めることを明らかにして、その特質と基本原理を説明する。その上で、その中心的課題の一つである学力問題に焦点を当てる。学力問題が注目されるに至った歴史的・社会的背景に言及するとともに、学力問題には少なくとも、学力低下、学力格差、学力の質の三つの次元からのアプローチが必要であることを説明する。 |
| Course Objectives: |
| 【一般目標】(1)教育の基本的概念教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。(2)教育に関する歴史教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。(3)教育に関する思想教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。【到達目標】(1)教育の基本的概念1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。2)子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。(2)教育に関する歴史1)家族と社会による教育の歴史を理解している。2)近代教育制度の成立と展開を理解している。3)現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。(3)教育に関する思想1)家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。2)学校や学習に関わる教育の思想を理解している。3)代表的な教育家の思想を理解している。 |
| Course Schedule |
| Day | Topic | Content/Activities |
| 1 | 教育原理とはどのような科目か | 教育職員免許法を参照しつつ、教育原理が「教育の基礎理論に関する科目」の中の一つであり、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に焦点を置く講義科目であることを説明し、講義内容を概観して、受講生がそれをあらかじめ見通せるようにする。それとともに、教師の仕事と教員養成教育カリキュラムとの関連について全般的に解説する中で、教育原理という科目が教師の仕事（教育実践）とどのようにかかわるのかについての理解を促す。（目標(1)-1),2)） |
| 2 | 教育という営みを理解する（その１：語源からの考察） | ４つの視点から教育という営みにアプローチして、教育という基本概念の理解を試みる。まず、第一の視点として、教育という用語が、子育ての長い歴史の中から発生したものであることを理解させる。すなわち、その用語が、教えるの「教」と育つの「育」との合成語であることに着目させつつ、「教（授）」、「（養）育」、「教育」相互の異同について説明し、教育という営みが単なる「教授」でもなく、また単なる「養育」でもない、それらを併せ特質を有する営みであり、そうした営みの重要性に対する認識の高まりとともに生まれた用語であることを理解させる。（目標(1)-1),2)） |
| 3 | 教育という営みを理解する（その２：人間形成要因論からの考察） | ここでは、第２の視点として、人間形成要因の一つとしての教育という営みに着目する。まず、人間形成要因としての「遺伝」と「環境」との関係について、どのような教育的思想が展開されてきたか、その歴的変遷を概観する。つぎに、人間形成過程に対して教育という営みはどのようにかかわっているのかについて、「遺伝」や「環境」のかかわり方との違いに注目しつつ、説明する。教育という営みは「遺伝」や「環境」とならぶ人間形成要因の一つにすぎないが、きわめて重要な特質を持つ要因―人間形成課程の目的意識的制御という特質を持つ要因―であることを理解させる。（目標(1)-1),2),(3)-1),2)） |
| 4 | 教育という営みを理解する（その３：社会的機能論からの考察） | ここでは、教育と社会との関係を追求した代表的社会学者の一人であるデュルケムの教育思想を中心にして、教育という営みが社会の存続要件であること、すなわち、教育という営みがなければ社会そのものが成り立っていかないこと、いわば社会は自ら存続発展するために教育を組織化することを、「社会化としての教育」という概念を参照しつつ、説明する。（目標(1)-1),2),(3)-3)） |
| 5 | 教育という営みを理解する（その４：授業論からの考察） | 教育の営みは、学校教育という場においては、基本的に授業という形をとって行われる。授業（教材を媒介とする教師と子どもとの相互作用）においては、教育は学習の指導（方向づけ）としてあらわれる。ここでは、授業にかかわる教育思想の営みの歴史的変遷を概説しながら、学習指導としての教育という営みは、どのような学習形態をとるのか、子どもにどんな学習活動をさせるのか、学習過程をどう構成するかという授業の設計の問題として立ち現れることを理解させる。（目標(1)-1),2),(3)-1),2),3)） |
| 6 | 家庭教育の特徴と基本的機能 | 教育基本法10条には家庭教育に関する規定があり、家庭教育の重要性と家庭教育に対する親の責任を法定している。他方、「家庭教育の貧困」が指摘されていることも事実である。ここでは、家庭教育が社会教育や学校教育とどのように異なるのか、その基本的機能は何かを理解させる。（目標(1)-1),2),(3)-1)） |
| 7 | 現代の家庭と教育をめぐる諸問題 | 現代社会における家庭教育の変貌を歴史的な視点からとらえ、家庭教育の問題を大きく、１）わが国の伝統文化に由来する問題と、２）社会構造の変化に由来する問題に分けて説明し、それを通じて、現代の家庭教育がいかなる課題に直面しているかについて理解させる。（目標(1)-1),2),(2)-1),3)） |
| 8 | 社会教育の歴史的変遷と社会教育の理念 | 社会教育に関して、わが国では、広狭、二つのとらえ方があり、教育基本法12条の、社会において行われる教育という定義と、社会教育法２条の、学校教育以外の組織的な教育活動という定義がそれであるが、ここでは、わが国では社会教育というものがどのような歴史的背景から生まれてきたのかを、第２次大戦前の社会教育と第２次大戦後の社会教育とを比較しつつ説明し、現代の社会教育がどのような理念に基づいているかを理解させる。（目標(1)-1),2),(2)-1),3)） |
| 9 | 社会教育の諸側面 | 社会教育にはさまざまな側面があり、多角的にみる必要がある。ここでは、社会教育を、その対象、形態、施設、活動形式、内容という５つの観点から整理して、多様な姿があることを理解させる。（目標(1)-1),2)） |
| 10 | 社会教育の世界的動向と現代的課題 | 1965年のユネスコ成人教育推進委員会におけるポール・ラングランによる「生涯教育論」の提唱は、社会教育の思想と行動を新たな地平に導くこととなった。ここでは、生涯教育論という新たな教育観とはどのようなものであり、いかなる社会的背景から生まれてきたかを説明するとともに、生涯教育論登場以降のわが国における社会教育の動向を探り、社会教育の現代的課題を明らかにする。（目標(1)-1),2),(2)-2),3)） |
| 11 | 公教育の中核としての学校教育 | 学校教育の特質―教育の組織性、体系性、計画性等―を理解するには、学校教育を生み出した公教育制度の成立について理解する必要がある。公教育の成立と発展により、教育活動は国家的・社会的な規模において組織化され、学校教育が最も有力かつ支配的な教育形態と化した。ここでは、学校教育の特質を明らかにするとともに、公教育の成立を促した歴史的・社会的背景と公教育の立脚する根本原理を説明することにより、公教育の概念を理解させる。（目標(1)-1),2),(2)-2)） |
| 12 | 学校教育の中心的課題としての学力問題 | わが国の学校教育をめぐる重要な問題の一つに「学力問題」がある。ここでは、学力間に関する教育思想の変遷を明らかにするとともに、近年、学力が問題として注目されるに至った経緯を素描するとともに、学力をめぐる議論を整理することを通じて、学力とは何か、その基本概念について理解させる。（目標(1)-1),2),(2)-1),(3)-2),3)） |
| 13 | 学力問題の３つの側面 | 学力をめぐる問題は複合的な問題であり、ただ単に子どもの学力をいかに向上させるかにとどまらない。学力問題には少なくとも、学力低下、学力格差、学力の質の３つの次元からアプローチする必要がある。（目標(1)-1),2),(2)-3),(3)-2),3)） |
| 14 | 学びの質を改善する授業の試み | 学力問題の解決、とりわけ学力の質を改善するために、新しい学習指導要領を受けて、授業改善の新たな試みが提案されている。たとえば、「ゆとり」か「詰め込み」かの二者択一を超え、「習得サイクルの学習」と「探求サイクルの学習」のバランスをとることが不可欠であるという提案はその一つである。ここでは、授業過程の再構成の試みを紹介することを通じて、学びの質の改善をねらう授業のありかたについて理解させる。（目標(1)-1),2),(2)-3),(3)-2),3)） |
| 15 | 総まとめと質疑応答 | ここでは、次週の考査を前提に、講義全体を通じて何を学んだのかを振り返る（「自己省察」する）とともに、講義内容に関する質疑応答の時間とする。 |
|  | 期末試験 |  |
|  |
| Required Materials: |
| テキスト：なし参考書：関連内容の資料などのプリントを授業時に配布する。 |
| Course Policies (Attendance, etc.) |
| 教職を目指す学生として教員の崇高な使命をよく理解するよう努めることが肝要である 。 授業は欠席や遅刻をすることなく 積極的に参加するように心がけること。 特に、 時間に凡帳面であることと、 日常生活の態度 （ あいさつ、 身なり 、 言葉遣い等） には気をつけること。 教員採用試験に向けて教職教養の勉強をしっかり して力をつけること。 |
| Class Preparation and Review |
| Students are expected to spend at least one hour reviewing and doing homework and one hour preparing for every hour of lesson time.事前・事後学習として週４時間以上行うこと。 |
| Grades and Grading Standards |
| ・授業の展開の中で課すレポート　３０％　・定期試験　７０％ |
| Methods of Feedback: |
| レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。・コメントを記載して返却する。・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。・答案例を配布する。 |
| Diploma Policy Objectives: |
| Work completed in this course helps students achieve the following Diploma Policy objective(s):3. The ability to identify and solve problems 4. Advanced communicative proficiency in both Japanese and English |
| Notes: |